

Q

「インターネット犯罪」
にご用心！③インターネット・バンキングを
利用する際に、どんな用心が必要か
チェックしてみましょう。

ヒント

IDやパスワード等の重要情報をクラウドサービスに登録してしまってよかったのでしょうか？

A

「クラウド等からの
個人情報流出」
に気を付けましょう。気が付かないうちに口座の
IDやパスワードを盗む

ウイルス感染などによって、利用しているクラウドサービスのIDやパスワードが流出した場合、第三者による不正アクセスによりクラウドサービス上に保管している情報が漏えいする可能性があります。(スマートフォンのメモアプリから漏えいする場合も)



用心する「ポイント」はココ！

**1 認証情報の管理は特に慎重に。**

クラウドサービス事業者へのサイバー攻撃やその他の要因で、預けているデータが外部に漏えいする可能性があります。万が一を想定し、クラウドサービス上に預けるデータの性質を慎重に判断することが大切です。

2 パスワードの使い回しを避ける。

万が一、クラウドサービスの情報が流出した場合、流失したものと同じIDとパスワードを他のサービスでも利用していた場合、他のサービスでも不正アクセスを受ける危険性が高まります。IDやパスワードは、個別のサービスごとに異なるものを設定し、使い回しをしないことが大切です。

3 セキュリティ対策ツールを組み合わせる利用を。

銀行は、インターネット・バンキングの不正利用防止のためにさまざまなセキュリティ対策ツールを提供しています。複数のツールを組み合わせるなどして効果的に使いましょう。

さらにも
ここに
ご用心！

不正に入手した口座情報をもとに、キャッシュレス決済サービス(〇〇ペイ、〇〇Payなど)のアカウントを開けるとともに銀行口座と連携したうえで、預金を不正に引き出す手口もあります。